仙境

えせず、今は松の葉くふにも及ばず、本のごとく五穀むさぼり食て、弟子共にゆゝしく讓りたりし坊も寶も取返してかゞまり居たり、仙道に到る人たやすからぬ事なり、

〔日本書紀六垂仁〕九十九年○中略明年三月壬午、田道間守至自常世國、○中略是常世國、則神仙秘區、俗非所臻、是以往來之間、自經十年、

〔釋日本紀十二述義〕天書第八曰、廿二年○雄略秋七月、丹波人水江浦島子、入海龍宮、得神仙、

〔下學集上人倫〕姑射山指仙洞也、姑射山、仙人之所居也、祝以謂院居也、

〔八雲御抄三下異名〕はこやの山山名にてあれども、これ仙洞といふ、

〔藻鹽草十四氣形〕仙

ふかうの里無何有里也、是は仙人の栖也と云々、又云、おもしろき所えもいはぬ事を云とも云り、

〔萬葉集十六雜歌〕心乎之、無何有乃鄕爾、置而有者、藐孤射山乎、見末久知香谿務、

〔奥儀抄中ノ下〕ぶかうは、莊子文之、無何有之鄕也、はこやは、藐姑射山也、或物云、共仙人住所也、

式子內親王

〔千載和歌集十賀〕百首の歌讀給ける時の祝の歌

うごきなき猶萬世ぞ憑むべきはこやの山の峯の松風

寂蓮法師

〔新後撰和歌集二十賀〕千五百番歌合に

浪の上に藥もとめし人もあらばはこやの山に道しるべせよ

仙藥

〔藻鹽草十四氣形〕仙

おいずしなずの藥樂府集云、中有三神山、上多生不死藥、三神山は蓬萊、方丈、瀛州也、

壬生忠岑

〔古今和歌集十九雜體〕ふるうたにくはへてたてまつれるながうた

くれ竹のよゝのふること、なかりせば、いかほのぬまの、いかにして、おもふ心を、のばへまし、○中略

をとはの瀧の、音にきく、おいずしなずの、くすりもが、君がやちよを、わかえつゝ見ん、